

「空き家バンク」活用で移住! 仙北市へ、えくきてげだんし

## 田舎ぐらし体験日記

# 定住・ニ地域居住のススメ

矢村 勝之さん(70歳) 邦子さん(64歳)  
(仙北市西木町上桧木内字寺村69-1)

矢村さんご夫婦は、北海道虻田郡ニセコ町から平成20年7月2日に移住されました。お二人は、昨年度開設された「空き家バンク(仙北市空き家情報登録制度)」を活用し、移住を決められた最初のご家族です。

お二人の出身は東京都ですが、仕事の関係で全国各地に住んでいた経験があり、勝之さんは現在、日本テレマークスキー協会の会長を務めています。そのため、スキーには造詣が深く、今回の移住を決める大きな理由として田沢湖スキー場の存在があったと言います。また、秋田市在住の息子さんの勧めも大きな決め手になったと言います。

今年3月頃から仙北市内の物件を探し始めたそうですが、なかなか見つからず、息子さんからインターネットで見つけた仙北市の空き家バンクを紹介されたそうです。4月に息子さん夫婦が下見に訪れ、好感を持ったことを受けて、矢村さんご夫婦は、5月の連休に上桧木内を訪れました。家主さんとの交渉の末、ほぼ移住を決意。勝之さんは「こういうのは縁による部分が大きい」とこれまでの経験から感じていたそうです。引っ越しまでの約2ヶ月間、準備等に追われる毎日だったと言います。6月末に正式に契約を交わし、7月に北海道からフェリーで秋田へ。愛犬のフィン(北海道犬)を連れて上桧木内に到着しました。業者の10トン車満載に荷物が積み込まれ、大掛かりな引っ越し作業となりました。勝之さんはスキー以外でもカヌーなどアウトドアの趣味をお持ちで、スキーが30台、カヌーが3艇…荷物の多さには目を見張りました。



左から勝之さん、愛犬フィン、邦子さん

引っ越して1週間、お二人に暮らしぶりを伺いました。

「まだ(引っ越して)日が浅く、荷物の片付けや近所へのあいさつまわりなどで忙しい…」と勝之さん。アクティブな勝之さんは、実年齢よりずっと若く見えます。

仙北市の印象をたずねると、「自然の原風景はもちろん、何よりも人情味があって親切な方が多い」と言います。引っ越し早々、近所の方からボイラーの調子を見ていただいたり、テレビの設定をしてもらったり、大変助かったと言います。また、のんびりとした気質、秋田弁(東北弁)を大変気に入っており、早くマスターしたいと意気込んでおりました。

邦子さんは、時折、家の前を通過する秋田内陸線が大変お気に入り、毎回、思わず手をふってしまうそうです。存廃問題もご存知で、「絶対に残してもらいたい」と、強く熱望していました。もう少し落ち着いたら、内陸線に乗って秋田のお孫さんに会いに行くのを楽しみにしているようです。

不便なことをたずねると、持ってきた携帯電話がまったく使えず、早速取り替えに角館まで行ったこと、買い物に出かけたときちょっと距離を感じたこと、と言いますが、特別困っているわけではないようです。

今後の展望として、勝之さんは「冬の間はスキーを教えるとして、それ以外のシーズンは何か仕事をしたり、これまでも携わってきた森林など環境面でのボランティア活動をしていきたい」と言います。邦子さんは「これからはゆっくと時間を過ごし、秋田での生活に早く慣れたい」と新天地での期待に胸を躍らせていました。

